

# 全国水土里ネット会長賞

## 1. 地区概要

参加地区名：青森県 垂柳猿賀地区

表彰団体名：「田園」未来を築く会

事業名等：田園空間整備事業

工期：平成15年度～平成20年度

主要工事：農業集落道整備L=500.9m、農村公園緑地整備A=14,480㎡、用地整備A=27,165㎡  
コミュニティ施設整備A=572.6㎡、景観保全整備N=13基、集落農園整備A=8,100㎡

## 2. 当該団体の概要

(1) 組織名 「田園」未来を築く会

(2) 設立年度 平成18年度

(3) 設立経緯

田園空間博物館を核に、地域の活性化ならびに尾上地区、田舎館地区の進展を図ることを目的に設立。

(4) 主な活動

①農業（稲作）体験

田植え、草取り、稲刈り、脱穀、遊稲祭（収穫感謝祭）

②どろリンピック

年に1度、地元小学生及び父兄を中心に、水田で徒競走、そり引き競争、ボール取りなどを行い、田んぼに親しむ

③土器作り体験、押し花、染め物教室、リース・正月飾り教室、料理教室、古代米品種の保存活用

土器作りを体験し、昔の暮らしを学ぶ、古代米の紫稲を使った染め物教室、古代米を利用したリース・正月飾りの作成、地元食材を利用した手作り豆腐体験、地域に伝わる農書に記載されている品種及び全国に残されている古代米品種の保存・保護活動

## 3. 活動の概要

垂柳猿賀地区田園空間整備事業で整備された各施設を住民主体で利活用するために平成18年に「田園」未来を築く会を設立し、稲作文化にこだわった活動を展開するとともに、見て楽しむイベントではなく、からだで感じる体験型イベントを主体とし、田園空間の持つ癒しを地域だけではなく、都市部の人々にもPRしている。また、グリーン・ツーリズムへの取組みの加速、新たな特産品の検討もを行い、積極的に行政、地域農業者、商工会と連携しながら、活力と個性ある地域づくりを推進している。

## 4. 農業農村整備事業の実施後の取組み内容と効果について

総合案内所「遊稲の館」を中心に、垂柳遺跡で発見された水田跡を再現した弥生水田体験田（3.5m四方154枚）での農業体験は、グリーン・ツーリズムとしての役割も果たしている。（半数以上は村外より参加。）

古代米を利用した手作り体験教室を開催（押し花教室、生け花教室、染め物体験、正月飾り教室、料理教室）し、利用価値などを地域住民だけでなく、都市部の人たちにも啓発している。

③田舎館村に伝わる農書（耕作晰）に記載されている稲品種の保護・保存、その他東北地方、全国に残された古代米の育成及び保存保護活動をしている。

項 目	事業実施前	現在
①総合案内所「遊稲の館」、 弥生体験田でのイベント開催回数 及び参加人数	開催回数→0回 参加人数→0人	16回/年 770人/年
・農業体験の参加人数	0人	450人/年
・どろリンピック	0人	50人
・土器作り体験	0人	60人/年
・押し花、染め物教室	0人	90人/年
・リース・正月飾り教室	0人	40人
・遊稲祭（収穫感謝祭）	0人	50人
・料理教室	0人	30人

## 5. 取組みに対しての苦勞、工夫及び地域の課題の克服について

### (1) 取組みに対しての工夫

田園空間博物館の取組、地域の名所・旧跡を網羅したパンフレットを作成し、県内で配布。

### (2) 地域住民や関係機関との連携について

グリーン・ツーリズムへの取組み、新たな特産品の検討を行い、積極的に新しい取組みに向けた活動を行政、地域農業者、商工会と連携しながら、活力と個性ある地域づくりを目標に取り組んでいる。

## 6. 本取組みと農業について

二千年前の水田跡が残る垂柳遺跡が発見されたことにより、元々農業が基幹産業である本地域において、古代からの稲作が盛んだったことが、地域農業者にも良い作用で働き、農業者としての誇りが再認識できた。そして、今後も古代米などの古き良き稲作作りを守りながら、魅力ある農業を展開し、担い手の確保も積極的に行い、推進を図っている。

## 7. 今後の展望など

伝統的な農業施設や農村景観を地域住民と保存・育成・展示することを通して、地域振興を図るとともに、近傍の都市部との人々にも啓発し、グリーンツーリズムの展開を図っていく。



小学校体験学習 田植え



ドロリンピック



弥生体験田 稲刈り



土器作り



染め物教室



リース・正月飾り教室